

## 新中山池 (しんなかやまいけ)

### 位置図



### 諸元

貯水量	600	千m <sup>3</sup>
満水面積	5.7	ha
受益面積	325	ha
堤高	26	m
堤長	181	m

新中山池は伝法川の支流殿川上流にあり、小豆島のほぼ中央に位置しています。伝法川一帯の公共施設や農作物などを洪水から防ぐことを目的に、昭和 27 年 (1952 年) に県営防災ダム事業として着手し、昭和 34 年 (1959 年)、中山池のすぐ下に完成した歴史の新しいため池です。

ため池といっても、貯水量が 60 万 m<sup>3</sup> (蛙子池に次いで小豆島で第 2 位。県下で第 31 位) もあります。

文献によると、新中山池が築造される前の用水事情は大変厳しく、たびたび水争いが起こったとのことでした。

昭和 59~60 年 (1984~1985 年) の異常渇水時には島全体が長期にわたる給水制限を強いられました。このとき 5 万 m<sup>3</sup> もの土砂の浚渫を行って貯水量の確保を図りました。

新中山池築造の効果として、治水上の効果はもちろんのこと用水としての効果も大きく、名産の電照菊栽培に弾みがつきました。

ため池の上流側はお城の石垣のような石張りが施されており、高い技術と築造時の苦労が偲べれます。すぐ下流には棚田 100 選にも選ばれた中山千枚田やほたるの生息する溪流がある自然の豊かなところで、小学生の自然学習にも活用されています。



新中山池